

2024年3月28日

環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等（令和4年度）について」

まとめ≡ごみかん運営委員 小野寺 勲

環境省が、2022年度の全国の一般廃棄物の排出及び処理状況等について調査し、その結果を取りまとめたもの。人口10万人未満の自治体においては、リデュースでベスト10の自治体は、ほとんどが生ごみ処理機などによる生ごみ自家処理を要請または奨励しており、その上1～3位の自治体は生ごみを一切収集していません。また、リサイクルでベスト10の自治体のほとんどは、生ごみの堆肥化、メタンガス化、炭化を実施。

■ ごみ排出の状況

ごみ総排出量

4,034万トン、前年度比1.5%減。
5年前（2017年度）に比べ5.9%減。
※ごみ総排出量＝収集ごみ量＋直接搬入量＋集団回収量

1人1日当たりのごみ排出量

880グラム、前年度比10グラム減。
5年前に比べ40グラム減

■ ごみ処理の状況

総資源化量

791万トン、前年度比3.1%減。5年前に比べ8.9%減。
※総資源化量＝直接資源化量＋中間処理後再生利用量
＋集団回収量

リサイクル率

19.6%、前年度比0.3ポイント増。
5年前に比べ0.6ポイント減。
※リサイクル率（%）＝総資源化量÷ごみ総排出量×100

■ 3Rの取り組みベスト10

リデュース（1人1日当たりのごみ排出量）の取り組み上位10位市町村 （単位：グラム/人日）

人口10万人未満			人口10万人以上50万人未満			人口50万人以上		
1. 長野県	川上村	283.3	1. 東京都	日野市	600.5	1. 東京都	八王子市	726.8
2. 長野県	南牧村	319.4	2. 静岡県	掛川市	614.5	2. 愛媛県	松山市	754.0
3. 徳島県	神山町	393.0	3. 東京都	小金井市	619.6	3. 京都府	京都市	757.3
4. 長野県	北相木村	422.1	4. 東京都	西東京市	648.7	4. 神奈川県	川崎市	766.7
5. 北海道	更別村	426.4	5. 東京都	小平市	655.7	5. 神奈川県	横浜市	793.9
6. 宮崎県	高原町	430.5	6. 東京都	府中市	660.0	6. 埼玉県	川口市	795.0
7. 長野県	泰阜村	432.7	7. 東京都	東村山市	661.3	7. 静岡県	浜松市	808.1
8. 長野県	阿南町	434.2	8. 東京都	立川市	662.9	8. 広島県	広島市	816.7
9. 長野県	下條村	438.6	9. 東京都	国分寺市	666.7	9. 埼玉県	さいたま市	822.6
10. 長野県	中川村	439.6	10. 静岡県	藤枝市	667.5	10. 千葉県	船橋市	825.7

リサイクル（リサイクル率）の取り組み上位10位市町村 （単位：%）

人口10万人未満			人口10万人以上50万人未満			人口50万人以上		
1. 鹿児島県	大崎町	84.0	1. 神奈川県	鎌倉市	56.3	1. 千葉県	千葉市	34.4
2. 徳島県	上勝町	81.1	2. 東京都	国分寺市	45.0	2. 東京都	八王子市	28.3
3. 鹿児島県	志布志市	76.0	3. 東京都	小金井市	44.6	3. 愛知県	名古屋市	26.9
4. 北海道	豊浦町	74.4	4. 岡山県	倉敷市	44.1	4. 福岡県	北九州市	24.2
5. 北海道	小平町	65.8	5. 埼玉県	加須市	37.7	5. 新潟県	新潟市	23.6
6. 長野県	木島平村	64.3	6. 東京都	立川市	36.3	6. 神奈川県	横浜市	22.6
7. 福岡県	大木町	63.9	7. 愛知県	小牧市	36.1	7. 埼玉県	川口市	22.5
8. 鳥取県	日吉津村	53.8	8. 東京都	東村山市	35.7	8. 埼玉県	さいたま市	20.9
9. 奈良県	斑鳩町	50.9	9. 東京都	西東京市	34.1	9. 千葉県	船橋市	20.6
10. 北海道	下川町	50.9	10. 東京都	調布市	33.6	10. 北海道	札幌市	19.6

※中間処理後再生利用量から固形燃料（RDF、RPF）、焼却灰・飛灰のセメント原料化、セメント等への直接投入、飛灰の山元還元された量を差し引き、リサイクル率を算出。